

伊賀市上野西部 公民館だより



第 140 号

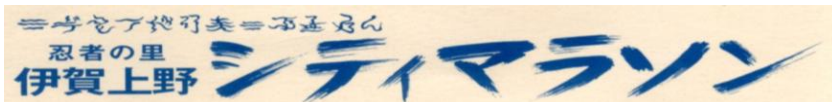
平成 26 年 12 月 15 日

編集発行: 上野西部公民館

所在地: 伊賀市上野福居町

TEL・fax 0595-23-9779

上野西部地区の人口 世帯数 1,471 人口 3,342 人(内男 1,591・女 1,751) 26.11.30 現在



天候に恵まれた 11 月 30 日(日) シティマラソンが行われ 今年の上野西部地区を 4,000 人のランナーが駆け抜けました。今回の特別表彰について(申込時点)
25 回連続出場 2 名 遠来賞 宮城県・佐賀県
ベテランランナー 93 才男性 79 才女性
沿道の皆さん ご協力応援有難うございました。

人権パネル展

差別をなくす強調月間にちなみ、人権パネル展が 11 月 20 日～12 月 9 日迄開催されました。子どもの権利・犯罪被害者の権利・同和問題等 3 つのテーマに添って掲示されました。

上野西部地区人権啓発草の根運動推進会議



年末夜警

12 月 28・29 日

20 時～24 時 車両巡回

30 日 19 時～26 時

班別徒歩巡回

日頃 上野西部地区を守っている消防団 上野中分団 2 部(久保田部長)の皆さんが 上野西部公民館を拠点に年末夜警を行います。

地区住民の皆様も年末年始の火災や事故などの災害に十分注意をおねがいします。



お知らせカレンダー

1 月 18 日	伊賀市議会報告会	1 月 25 日	上野西部ボーリング大会
2 月 1 日	健康教室	2 月 8 日	上野西部防災訓練
3 月 1 日	こども工作教室		

※予定です。詳しくは事前の広報・チラシで確認・申込してください。

往古川(おもがわ)水質検査

根本池



12月4日 往古川の水をきれいにしよう会では 往古川への流入下水道や往古川の状況を見る水質検査の為の採水を行いました。毎年継続して行っています。

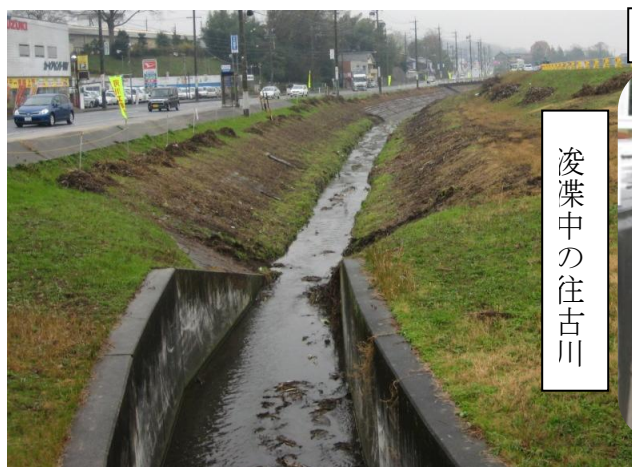
各家庭で合併浄化槽の設置や 一工夫してきれいな排水に心掛けていただきどぶ川となっている往古川(おもがわ)をきれいな 魚の棲む川に代えて下さい。

調査結果は後日お知らせします。

木興町下水流入



浚渫中の往古川



忍町・三之西町



料理教室

にんじん西部

上野西部公民館



12月10日(水) にんじん西部の料理教室(正月を彩る料理)が開催されました。27名が参加されました。

メニュー

- イ①豚の寿焼き
- ②吹き寄せ卵
- ③ゆず釜
- ④焼きネギ
- ⑤たつくり
- ⑥黒豆

- ロ⑦七福煮 しいたけ
ごぼう・にんじん
こんにゃく・筍
絹さや・レンコン

ハ⑧すまし汁

ニ⑨香の物

ホ⑩ご飯

レシピは公民館に有ります。

おもちつき大会

上野西部地区住民自治協議会

上野西部公民館 共催

12月7日(日) 上野西部おもちつき大会が開催されました。朝の冷え込みが厳しい日でしたが 寒さに負けない子供達(91名)と保護者・スタッフなど 180余名が参加、昔ながらの石臼と杵で餅をつき つきたての軟らかいもちをきなこでいただきました、部屋では あんを餅で包み 保護者の方と協力してあん餅をつくり お土産としました。

2回目のついたもちは しるこに入れておいしくいただき、又 大根おろし・砂糖醤油・のり・きなこ など お腹いっぱいいただきました。

機械化された時代ですが正月を迎える伝統行事を若い世代に伝えていく交流が出来ました。



煌星俳句会

(大野利江選評)

菰卷の帯は花魁結びてふ

おいらん

平野 淑子

松や杉の幹に越冬の菰を巻き最後に縄で締めるのを
花魁結びという。これを帯とみたのがこの句のポイント。

休耕田泡立草の驕りかな

おご

西村 郁子

外来の泡立草が日本の田を占領している。
それを驕り、思いつき上がりであると。「驕り」に作者の
気持が深く感じられる。

千柿の皺の機嫌も上出来に

しわ

富田 まり

「皺の機嫌」は言えるようで言えない表現。上出来の
皺に千柿の色や甘みも想像でき、まことに美味しそう。



小春日や江戸を遠目に芭蕉像

辻野 和彦

市駅前立像であろうか。「小春日」の季語が
芭蕉さんのやさしい人柄まで思わせる。心中に
江戸を想われている芭蕉さん

スコップをとくに頼杖自然薯掘

じねんじよ

田畑 寛一

宝物を掘り出すとき作業が伝わってくる。「ときに」に
時間をかけて休み乍ら、慎重に進めている様子が解る。

ボジョレヌーヴォ紅糸の雫注ぐごと

もみじ しずく

蔵本 稔恵

鮮やかなボジョレヌーヴォの紅が極だつ句。
トクトクトクと注ぐ時の香り高い音まで聞こえてくる。

しかと泥拭ひ大根街へ行く

百上 進一

肩のこらないユーモアたっぷりの詠いよう。白肌の大根が
歩いていくようである。いつも一味も二味もある俳人

大御幣伊賀を被ひて天高し

谷口 恂

天神秋祭りの景。先頭の大御幣に被われた伊賀盆地が
とても清々しい。

「天高し」の季語がよく効いている。



茅門の髪飾りなり蔓紅糸

かやもん

つた

安屋 宣子

茅葺の門をくぐる時、そこに蔓がからまっていた。
紅葉していて赤い髪飾りに見えたという。女性らしい句。

蓮台をしかと支へる蓮の骨

れんだい

山本 佳子

枯蓮が骨だけとなつてなお蓮のうてなを支えている。
親のような有難い骨。人のありようまで思われる句。